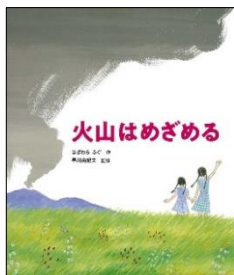


『火山はめざめる』(EK Ⅷ)

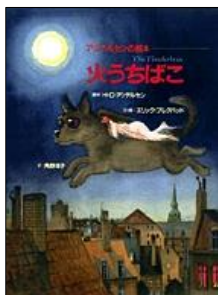
はぎわら ふぐ／作 早川 由紀夫／監修 福音館書店

火山は地球の中のマグマが地上にふき出してできた山。日本には110以上の火山があるんだ。長野県と群馬県の境にある浅間山もそのひとつ。ほとんどの時間は静かに眠ってすごしているけれど、目を覚ますと、熱い砂や石をまき散らす。浅間山の噴火のようすは、ずっと昔から記録に残っているよ。どんな噴火がおきていたのか、時代をさかのぼって見てみよう。



『火うちばこ』(EJ Ⅶ) H.C. アンデルセン／原作

エリック・ブレグバッド／文・絵 角野 栄子／訳 小学館



ひとりのへいたい、年をとった魔女と出会った。魔女はあなの底に忘れた「火うちばこ」を取ってきてくれば、お金をほしだけあげると言う。取ってきた箱を何に使うのか話そうとしない魔女にはらをたてたへたいは、お金と火うちばこの両方を持って町へと向かった。じつはこの「火うちばこ」には、すごいひみつがあったんだ。

おはなしの庭

日 時：令和8年1月6日(火)
10:30~11:00
内 容：東京子ども図書館の
浅見和子さんによるすばなし
場 所：中央図書館 2階
おはなしのへや
対 象：5歳から小学生とその保護者
定 員：20名程度(先着順)
申込み：不要

ビブリオバトル

日 時：令和7年12月21日(日)
令和8年 1月25日(日)
15:00~16:00
内 容：1人5分間で、おすすめの本を
紹介しあうゲーム
場 所：狭山台図書館
2階 視聴覚室
対 象：小学生以上
申込み：不要
持ち物：おすすめの本1冊



よむぞうタイムズ 91号

3年生 4年生

狭山市立図書館 2025.12.15 発行

寒いとき、きみはどうやって温まる？

ずっとむかしの人たちは火を使っていたんだって。火をおこすとまわりが明るくなるし、食べ物だっておいしく調理できる。今回は「火」をテーマに本を集めてみたよ。暖かいお部屋で読んでみてね。



『ふろふき大根のゆうべ』(JE Ⅶ) 安房直子絵ぶんこ Ⅰ

安房 直子／文 アヤ井 アキコ／絵 あすなろ書房



茂平さんはひぐれの山道で手ぬぐいをかぶったいのししに出会いました。みそを買いに行くといういのししに茂平さんが持っていた大根を一本分けてあげると「ふろふき大根のゆうべ」という集まりにまねいてくれました。たずねて行った家のいりろりには、ゆげをあげておいしそうに大根が煮えています。

心も体もほっとりとあたたかくなるお話で、あなたもあたたまってみませんか？

「安房直子絵ぶんこ」は、9巻まであります。このお話のほかにも冬にぴったりの物語があるので、ぜひ読んでみてね。



図書館のホームページから、読みたい本の予約ができます。休館日や開館時間、イベント等の最新情報もこちらからご確認ください。

狭山市立中央図書館 ☎ 04-2954-4646

狭山市立狭山台図書館 ☎ 04-2958-3801

狭山市公式HP <https://sayamalib.jp/>



『ちびドラゴンのおくりもの』(JDコ)

イリーナ・コルシュノフ／作 酒寄 進一／訳
伊東 寛／絵 国土社



ハンノーは学校が大きらい。勉強も運動も苦手だし、いつもひとりぼっち。ある日、ハンノーの目の前に小さなドラゴンが現れた。地の底の学校からにげてきたらしい。

「きみんここに、とめてくれない？」ドラゴンは、ハンノーの部屋にあるだんろの火を食べて大よろこび。おまけにランドセルに入って学校までついてきちゃった。ハンノーとドラゴン、ふたりでいればなんでもできる！

『はじまりはたき火』(ELコ)

火とくらしてきたわたしたち

まつむら ゆりこ／作 小林 マキ／絵 福音館書店



わたしたち人間は、「火」を道具として使う数少ない生き物だ。はじめは、人間も火がこわくて近づけなかった。けれど、だんだん火の良さに気がついて、火のある生活が始まった。

自分たちで火をおこせるようになり、その火を使って生活を豊かにしていった。道具もたくさん作って、楽にくらせるようになった。

でも、それっていいことばかりなのかな？未来のためにちょっと考えてみようよ。

『クリスマスのあかり』(JBロ)

チェコのイブのできごと

レンカ・ロジノフスカ／作 出久根 育／絵
木村 有子／訳 福音館書店

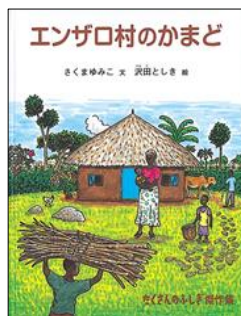


フランタは、教会にクリスマスの特別な灯りをもらいに出かけていった。そこで思わぬことがおきて、あわてて教会からとび出すと、いつも親切なドブレイシカさんが悲しい顔をして通りに立っていた。

どうやら、大切なものをぬすまれてしまったらしい。何かできないだろうかと、フランタはいっしょうけんめい考えた。チェコに住む心優しい少年の物語。

『エンザロ村のかまど』(J333サ)

さくま ゆみこ／文 沢田 としき／絵 福音館書店



エンザロ村には、電気も水道も通っていない。きれいな水がないので、病気がはやったり、赤ちゃんが死んでしまったりすることよくあった。そんな村人たちを救ったのが「かまど」だ。水を火にかけて効率よくわかす。

この「かまど」を村人に教えたのは、ひとりの日本人女性だった。遠くはなれたアフリカで日本の知恵が活かされているなんてすごいよね。

『山の上の火』(EJサ) エチオピアの昔話

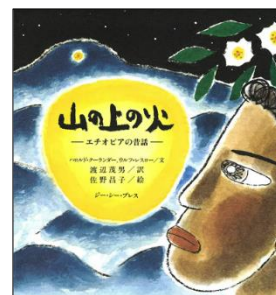
ハロルド・クーランダー／文 ウルフ・レスロー／文
渡辺 茂男／訳 佐野 昌子／絵 ジー・シー

アルハは山の上に立っていた。こごえるほど冷たい風が吹いているのに、服も着ていない。主人とのかけで、このままひと晩過ごせたら土地がもらえることになっていた。アルハを支えているのは谷の向こう側に見えるたき火だけ。はたしてアルハは土地を手に入れることができるのだろうか？

エチオピアの昔話は

『山の上の火』(JAク)

岩波書店にものっているよ。



『ひとつだけ守りたいもの』(JSパ)

リンダ・スー・パーク／作 ロバート・セーヘン／絵
佐藤 淑子／訳 玉川大学出版部

先生が出した宿題。考えるだけだから、簡単だと思った。もし家が火事になって、ひとつだけ持ち出せるとしたら何かしら？だって。

家族は安全だから心配しなくてだいじょうぶ。大きさも重さも関係なく選んでいいみたい。でも、いざ考え始めたら、とても難しい。

本当に大切なもの。あなただったら、何を選ぶ？



《さやまの100冊》「子どものときに読みたい本100冊」(さやまの100冊)は、教育委員会がおすすめしている本です。ぜひ、読んでみてください。

